

県内2位4万瓩 16年完成

霧島にメガソーラー

鎌田建設など

鎌田建設(霧島市、鎌田善政社長)は31日、霧島市霧島永水に所有する土地に、鹿児島県内2番目の規模となる出力4万瓩の大規模太陽光発電所(メガソーラー)を建設することを明らかにした。12月にも着工し、2016年8月の完成を目指す。

建設予定地はJRR豊線霧島神宮駅近くの山林で、敷地面積145万平方メートルのうち55万平方メートルを発電所として利用する。

発電所を建設するのは東京電力グループの東京エネシス(東京)。土地を所有する鎌田建設の関連会社から20年間、土地を借りて発電事業をする。太陽光パネル13万7千枚を設置、年間発電量は一般家庭約1万7千世帯分相当を見込んでおり、全量を九州電力に売電する。

8月下旬から台風に備えた防災整備を始め、11月までに県の建設許可、地域住民との協定書を交わす予定。

メガソーラー建設については、30日に住民説明会を開催。土砂流出など防災対策の強化を求める声に対して、鎌田建設は「しっかりと対応する」と答えた。

鎌田建設などは同地区で、1993年にゴルフ場建設に着工したが、景気悪化で集客が見込めないとして97年以降、工事を中断。そ

の後、養豚場建設計画に変更したが、「環境面で住民の理解を得られない」として2012年に断念した。

県内最大のメガソーラーは、京セラなどが出資した鹿児島七ツ島メガソーラー発電所が運営する鹿児島市の発電所で出力7万瓩。

(永井貴士)